

高校生が持続可能な地球の未来に向け
社会の課題解決を考え、行動する

私たちが社会を変える「SDGsアクション」のアイデア

有機栽培の拡大で持続可能な農業へ 足元からの挑戦

矢作建設工業賞 岐阜県立恵那農業高等学校

テーマ 有機キュウリでつなぐ未来 ～100年先の世代まで～

*チーム名：未来農業班 参加者：青山 彩、鈴木 佑麻、樋田 あゆみ(仮称)

2 持続可能な水資源 3 すべての人に健康と福祉を 4 質の高い教育をみんなに 5 ジェンダー平等を实現しよう 6 安全な水とトイレを世界中に 7 持続可能なエネルギーを 8 働きがいも経済成長も 9 産業と技術革新の基盤をつくろう 10 人や国の不平等をなくそう 11 住み続けられるまちづくりを 12 つくる責任 13 気候変動に具体的な対策を 14 海の豊かさを守ろう 15 陸の豊かさも守ろう 16 平和と公正をすべての人に 17 パートナリシップで目標を達成しよう

矢作建設工業賞を受賞した恵那農業高校未来農業班のテーマは、同校がキュウリで実践している有機栽培を、自分たちをモデルに広げたいという。動画では実際のキュウリハウスも案内。取り組むアクション



有機キュウリで持続可能な農業のあり方を考える「未来農業班」のメンバー

受賞者メッセージ

私たちの学校で取り組んでいるキュウリの有機栽培を地域へ全国へ広げること、持続可能な農業、作物の生産ができるのではと考えました。賞をいただきうれしいのと同時に、計画したことをアイデアだけで終わらせず、実行しなければという思いが強まりました。計画はまだ初期段階ですが、力を合わせて実現させます。

審査を終えて

全チームのクオリティーに驚く中、元々持つノウハウを生かす取り組み・プロセスの完成度の高さが選出のポイント。現行課題を把握したうえの対策にビジネスとして確立できる将来性も感じられました。耕作放棄地などを活用して周りと連携するシェア畑のアイデアは、建設業がめざす地域活性化にもつながります。

【特別審査】 藤井 麻帆 矢作建設工業株式会社

教育と将来を「生理でとめるな」鋭い着眼点と共感

SDGsアイデア賞 名城大学附属高等学校

テーマ KP (knowledge&pad) で共栄！

*チーム名：キャリアJKズ 参加者：山田 莉央、牧 弥佑、林 優香里(仮称)

3 すべての人に健康と福祉を 4 質の高い教育をみんなに 5 ジェンダー平等を实現しよう 6 安全な水とトイレを世界中に 7 持続可能なエネルギーを 8 働きがいも経済成長も 9 産業と技術革新の基盤をつくろう 10 人や国の不平等をなくそう 11 住み続けられるまちづくりを 12 つくる責任 13 気候変動に具体的な対策を 14 海の豊かさを守ろう 15 陸の豊かさも守ろう 16 平和と公正をすべての人に 17 パートナリシップで目標を達成しよう

アイデア賞に選ばれた名城大学附属高校キャリアJKズが着眼したのは、月経と教育・キャリアの意外な関係。発達途上国など女の子が学校に行けない要因に生理用品事情があり、そこも起因する女性の地位の低さと貧困の再生産を指摘する。対する提案は、自作可能で、洗って繰り返し使える布ナプキンと普及「生理でとめるな」をスローガンに掲げ、布ナプキンにメッセージを添えて現地へ送るアクション。展開案に、尾州繊維物産・障がい者就労といったマタチャ、現地の生徒の自己表現、活用×産業化をあげた。

は、作り方のアイデアは、作り方の国内外バー



探求テーマを発表するメンバーの牧弥佑さん



探求テーマを発表するメンバーの林優香里さん



探求テーマを発表するメンバーの山田莉央さん

受賞者メッセージ

内容がセンシティブなものなので、応募に当たっては自分たちの思いがうまく伝えられるかを熟考しました。何度も話し合い、試行錯誤しました。その結果、このような賞をいただけることに、とてもうれしく、また、取り組んできたことを形にできたという安心感もあります。そんな気持ちをモチベーションに、一層頑張っていきたいと思います。

審査を終えて

途上国の女子生徒たちがおかれた現状、その支援のためのアクションを多方面から分析し考察した提案に共感。布ナプキンをコミュニケーションツールとするところが秀逸。製作ワークショップで参加者も学ぶ点は素晴らしい。今後、多くの人、団体や組織が参加し、障壁がクリアされることを期待します。

【常任委員】 杉山 範子
日本サステナブルコミュニティ協会
代表理事 副会長

アジェンダ2030の前文に記載された環境、経済、社会の調和の視点から統合的に思考し、高校生が途上国の同世代の女子への想いと自立を願う気持ちは、きっと多くの共感を得る素晴らしいSDGsアクションに広がることでしょう！

【常任委員】 水野 雅弘
SDGs.TV代表
みらい甲子園総合プロデューサー

地域資源を活かす“健康卵”で みんなを笑顔に 実用性も評価

SDGsアクション大賞

愛知県立安城農林高等学校

テーマ 新開発★イチジク

剪定炭で卵革命！

～低脂質・低コレステロール卵で全ての人に健康と福祉を～

*チーム名：エグプロ研修班 参加者：三輪 寛太郎、倉中 駿希、清水 彩花、岡田 莉桜、加藤 あかね、安部 真珠(仮称)



飼料となるイチジク剪定炭を配合した餌やりで「健康卵」が生まれる

優れたアイデアに加えてその具体性、実行までできていることが評価されたアクション大賞。安城農林高校エグプロ研修班は、地元の名産イチジクの通常なら産業廃棄物になる剪定炭を炭にし、これを活用した低脂質・低コレステロール卵の開発にすでに成功。さらなる目標はアレルギー対応の卵を作ることだ。動画では鶏舎からのレポートで、鶏飼料に竹炭とイチジクの炭を0.4%ずつ混ぜていることを説明。第三者機関による卵の成分分析も行っており、「一般的な卵のコレステロール含有量は4.2mgなのに対し、開発した卵は3.13mgで、25%削減に成功。脂質は15%、カロリーは52%カットできた」と伝えた。また、これらの情報を学校ホームページやメディアで積極的に伝えたいこと、岡崎市との包括協定、各種コンテストの受賞も紹介。そして消費者の信頼を得ることで普及を図りたい、誰かが安心して食べられる卵を広く提供したい、そして「健康卵の安定生産で、飢餓をゼロに」「全てのの人に健康と福祉を」を実現させたいという考え。プレゼンの最後は「医療・福祉現場をはじめ、子どもからお年寄りまで幅広い人が笑顔になることをめざし、努力していく」と結んだ。

受賞者メッセージ

低脂質・低コレステロール卵の開発には2年かかりました。本気で挑んだ今回、これまでの努力が実ったと感じ、とてもうれしいです。卵は1個約60gと小さいですが、夢は大きく、自分たちが作った卵を医療や福祉との連携を進めながら、どんどん広げていきたい。今後も研究活動に取り組み、SDGs達成に貢献したいと思っています。

イル含有量は4.2mgなのに対し、開発した卵は3.13mgで、25%削減に成功。脂質は15%、カロリーは52%カットできた」と伝えた。また、これらの情報を学校ホームページやメディアで積極的に伝えたいこと、岡崎市との包括協定、各種コンテストの受賞も紹介。そして消費者の信頼を得ることで普及を図りたい、誰かが安心して食べられる卵を広く提供したい、そして「健康卵の安定生産で、飢餓をゼロに」「全てのの人に健康と福祉を」を実現させたいという考え。プレゼンの最後は「医療・福祉現場をはじめ、子どもからお年寄りまで幅広い人が笑顔になることをめざし、努力していく」と結んだ。

審査を終えて

現代人の食と健康、地域の名産品と環境の課題に着目した、まさに一石二鳥型の解決策とも言える次世代農業のロールモデル。地域に深く根ざし、消費者とのつながりまでを重視した受賞者の前向きなアクションには、多くの人に夢や希望を与えるインフルエンサーとしての活躍も大いに期待しています。

【実行委員長】 松田 裕子
三重大学副学長(地域創生担当)/
地域イノベーション学研究科教授

SDGs活動には、ゴールの相互関連への視点が不可欠です。地元名産品のイチジクによる地域経済発展と、産業廃棄物としての剪定炭問題に着目して、剪定炭の餌で低コレステロールの卵を生産するこの取組は、地域経済発展、資源利用、健康増進に寄与する複合的で実践的なSDGs活動として高く評価できます。

【常任委員】 古澤 礼太
中部大学/国際ESD・SDGsセンター准教授



1. 探究テーマとそれを選んだ理由

★誰もが食べられる卵を提供したい！！
★アレルギーに対応した卵をつくれないう(最終目標)
安城農林高校動物科学科エグプロ研修班は、上記目標を掲げ、日々研究活動に取り組んでいます。その第一歩として私たちが着目したのが炭です。



エグプロ研修班のメンバー

SDGs QUEST
みらい甲子園

東海エリア大会 優秀作品発表

高校生が、地球や社会の問題解決に向けたアイデアを発表するコンテスト「SDGs QUEST みらい甲子園」。新学習指導要領にも記載される持続可能な社会の担い手を育てるため、SDGsを起点に探究し、考え、行動することを促すもので、昨年始まった北海道・関西に続いて今年、東海エリア、神奈川が発足した。愛知・岐阜・三重の高校1・2年生を対象に開催された東海エリアは、37校・114チーム・約450名がエントリーし、最終選考に残ったのは12チーム。そのプレゼンテーション動画による大会が3月29日にオンラインで行われ、多くの高校生がライブ視聴する中、受賞チームが決定しました。

SDGs QUEST みらい甲子園 HP
<https://sdgs.ac>

JAPAN HOME WAND

「循環型社会」の実現を目指して

環境問題が叫ばれるようになって久しい昨今。我が国の住宅業界では空き家の増加という、大きな課題を抱えています。リフォームしながら最新の設備を施す、そして次の世代に譲っていく。まさに住宅界におけるサステナビリティ。「使い捨てではなく、長く住める住まいのサポートを！」それが私たちの願いです。

JAPAN HOME WAND株式会社 <https://jh-wand.co.jp>
お客様窓口 ☎ 0120-773-382 電話受付 平日10:00～19:00
JAPAN HOME WAND株式会社は持続可能な開発目標(SDGs)に賛同しています

株式会社 名晃

社員の成長が地域、世界へ広がることを願って

株式会社名晃が最も願うことは、社員の成長です。そのために、社員教育に力を入れています。交代で会議の議長を務める、業務改善を行うなどの実践で、学び場を設けています。また、人間力を鍛えるための活力朝礼、レポートとそのフィードバックを恵恩に続けています。成長した社員が会社だけに留まらず、地域社会のリーダーになって貢献し、さらには、世代を超えてつながりの輪が広がれば、世界はきっと良くなっていきます。

株式会社 名晃 <http://www.meikou5s-ajisai.co.jp/>
岐阜県安八郡八町東結1092-1 TEL.0584-62-3411

ホーユーはSDGsに取り組む高校生を応援します

hoyu

COLOR YOUR HEART

<https://www.hoyu.co.jp>

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



主催：SDGs Quest みらい甲子園 東海エリア大会実行委員会 共催：メーテレ、朝日新聞 企画：SDGs.TV
後援：国産広報センター、愛知県、岐阜県、三重県、名古屋市、岐阜市、愛知県教育委員会、岐阜県教育委員会、三重県教育委員会、名古屋大学教育委員会、岐阜市教育委員会、JICA中部
協力：中部大学 国際ESD・SDGsセンター 協賛：矢作建設工業株式会社、株式会社 名晃、ジャパンホームワンド株式会社